

はしがき

1 医療・看護にかかわる人権の基礎知識…………… 1

I 個人の尊厳と基本的人権…………… 1

- 1 個人の尊厳の意義 2 個人の尊厳保障の歴史
- 3 基本的人権の種類と体系

II 基本的人権の歴史…………… 5

- 1 自由権の歴史 2 社会権の歴史

III 新しい人権…………… 7

- 1 新しい人権の意味 2 プライバシー権と肖像権
- 3 自己決定権 4 環境権

IV 患者さんの人権保障と人権調整…………… 15

- 1 憲法が一般市民社会で果たす役割 2 人権の調整

V 胎児の人権享有主体性…………… 20

- 1 胎児の民法および刑法上の地位 2 堕胎と胎児の人権

コラム① 生存権規定の歴史…………… 24

コラム② 個人情報としての「要配慮情報」…………… 24

2 医療・看護現場で役立つ倫理的アプローチ…………… 25

I 患者—医療者関係について…………… 25

- 1 はじめに 2 「おまかせ」医療からセルフケアへ

II 患者—医療者関係をめぐる医療情報とリテラシー…………… 26

III 患者—医療者関係の〈PEC モデル〉…………… 27

- 1 PEC モデルとは 2 牧師モデル 3 工学モデル
- 4 契約モデル 5 患者—医療者関係 PEC モデルの利用法

IV 患者の権利章典…………… 38

3 「老い」と「認知症」をめぐる倫理的課題……………44

- I はじめに……………44
 - 1 「老い」とは何か 2 高齢化する社会と世代間の不公平
- II 認知症の時代……………46
 - 1 「老い」と「認知症」 2 認知症についての誤解と理解
 - 3 認知症者の自己決定とパターンリズムの問題について
- III 認知症者の権利と介護者の負担をめぐる課題……………51
 - 1 「徘徊する権利」は認められるか？ 2 自動車運転と認知症 3 「家族の意向」と「本人の利益」は一致するか？
- IV 人生の終末期に関する問題……………56
 - 1 自ら意思決定する能力が失われた場合への備えについて
 - 2 「延命処置」の是非をめぐる議論について
- V 高齢化社会の成熟期に向けて……………59
 - 1 要介護者の家族の人権について 2 高齢化社会の成熟期に向けての課題
- VI ま と め……………61

4 先端的医療における倫理的課題……………62

- I はじめに……………62
- II KアプローチとMアプローチ……………62
 - 1 Kアプローチ 2 Mアプローチ
- III SOL倫理とQOL倫理……………69
 - 1 SOL（生命の神聖さの）倫理 2 QOL（生命の価値）倫理 3 トリアージ
- IV 人工妊娠中絶……………76
 - 1 人工妊娠中絶 2 母体保護法 3 中絶についての学生の意見 4 中絶にまつわる通常ではない代替的選択肢
- V 倫理のショート・カット法と《We》／《They》二分法……………81
- VI 医療情報の守秘義務と解除……………84

5 看護倫理 88

- I 看護に必要な倫理と歴史 88
 - 1 看護の中心概念と倫理性 2 看護が重要視する価値
 - 3 看護に必要な倫理と倫理綱領 4 看護倫理の歴史的流れ
- II 生命倫理と看護 96
 - 1 生命活動のすべてに立ち会うものとしての看護 2 生命倫理の4つの原則と基本規則 3 生命の誕生にかかわる看護倫理的課題 4 生命の終焉にかかわる看護倫理的課題
- III 看護師と医師やその他の医療者および患者さんとの関係 100
 - 1 チーム医療における看護師と医師やその他の医療者との関係
 - 2 医師の補助者としての看護師か？ 3 医療者としての看護師—患者関係
- IV 看護師の守秘義務 103
 - 1 看護と患者さんのプライバシー権の課題 2 法と倫理綱領に見る守秘義務規定 3 患者さんとの個人的約束と守秘義務
- V ま と め 104

6 看護師の倫理的課題 106

- I 看護情報のシステムと活用 106
 - 1 看護情報と看護情報学の定義 2 看護情報システムとは
 - 3 看護情報システムとその活用
- II 医療・看護のリスク・マネジメント 108
 - 1 リスク・マネジメントの意味 2 医療・看護のリスク・マネジメントに関する法 3 医療・看護のリスク・マネジメント
- III 医療事故・医療過誤の予防 110
 - 1 医療事故・医療過誤とは 2 医療事故・医療過誤の予防
- IV 患者さんへの接遇における課題 111
 - 1 患者さんを個人として尊重する接遇 2 患者さんへの接遇の課題

V	情報の保証と保護	113
1	情報の保証と保護	
2	情報セキュリティの維持・向上のための方法	
3	個人情報の保証と保護	
VI	看護師の良心とパレーシア	115
1	看護師の良心	
2	パレーシア	
3	看護師の良心とパレーシア	
VII	事例を通しての理解	118
1	事 例	
2	事例へのアプローチ	
7	看護師の法的責任	120
I	看護師の病院勤務の中での責任	120
1	民事責任と刑事責任	
2	看護師の勤務内での責任	
II	医療事故と医療過誤	122
1	医療事故	
2	医療過誤	
III	看護現場の医療過誤	124
1	医療過誤における看護師の職業意識	
2	病院の医療過誤	
3	訪問看護の医療過誤	
IV	看護にかかわる法的な責任	126
1	看護師が問われる民事責任の制度的理解	
2	看護師が問われる刑事責任の制度的理解	
V	看護師のリスク・マネジメント	128
1	看護師の法的自己防衛	
2	損害賠償の実務上の扱い	
VI	看護師に必要な刑法の基礎知識	130
1	遺族の感情と量刑	
2	刑事責任と看護師資格	
3	刑事責任の基礎知識①「罪刑法定主義」	
4	刑事責任の基礎知識②「犯罪の成立要件」	
8	医療・看護の事故と医事法	135
I	医業の独占と多職種の連携	135
1	医師による「医業の独占」	
2	看護師の業務範囲について	
3	拡大しつつある看護師の役割	

II	医師の応召義務と長時間労働	138
1	医師の応召義務について	
2	勤務医の長時間労働について	
III	精神障害者に対する医療	141
1	精神科病院への任意入院の原則	
2	措置入院	
3	医療保護入院と応急入院	
4	精神科入院患者の処遇に関する規則	
5	判断能力を有さない患者への医療行為	
IV	医療の安全確保	144
1	医療の安全のための制度	
2	医療の「墓標安全」から「予防安全」へ	
3	「ハインリッヒの法則」と「ヒヤリ・ハット報告」	
4	リスクを「管理する」ということのジレンマ	
V	「診療ガイドライン」の功罪	147
1	EBMと診療ガイドライン	
2	増え続ける「診療ガイドライン」	
3	「診療ガイドライン」と医療訴訟	
VI	緊急の医療課題「社会は感染症にどう立ち向かうべきか」	149
●	ケース・スタディ編	151
事例①	三度目の胃がんの手術	
事例②	認知症者とインフォームド・コンセント	
事例③	「徘徊」をめぐるジレンマ	
事例④	自己決定に対する家族の影響	
事例⑤	要介護高齢者への虐待の予防と医療者の役割	
事例⑥	抗がん剤治療中に急死した少女	
事例⑦	エドワーズ症候群（第18染色体トリソミー）の新生児	
事例⑧	ECMOは誰に優先されるべきか？	
事例⑨	予防的乳房・卵巣摘出手術	
事例⑩	性適合手術と生殖補助技術による子づくり	
事例⑪	患者さんの権利と実験的治療のあり方	
事例⑫	誤って筋弛緩剤を点滴された患者さんが死亡……	
●	資料編	169
	看護者の倫理綱領	